

こういう点では、これから教職につこうとする方々へおこがましく申し上げる必要もなさそうですが、ただ一つ、これだけはくれぐれも申し上げたいことは、健康ということだけは不可欠の条件であるということをございます。

極端に言えば、健康に自信のない人は教師になる資格なし、とも言えましょう。特に小中学校の教師は全くの重労働であり、ひよわい人にはとてととまるものではありません。また女性の立場からいつて、独りのうちほとととく、家庭を持ち子供とできて、更に仕事も続けていく場合は並大抵のことではやつていけません。勿論、家庭の環境や家族の理解も必要ですし、いわゆる根性も大切でしょうが、結局のところは健康がものをいうようです。

どう一つ、大学で学んだ専門知識が果して現場で役に立つものだろうかということですが、たしかに高校ならいざ知らず、小中学校では大学で学んだことをそのまま教えることはありません。しかし、基礎にしっかりとものがあるとないでは大違いなのは言うまでもないことで、専門知識はみっちり身につける必要があります。

ただそうかといつて、狭い専門分野にだけとととるのではなく、むしろ大いに読書をしたり、その他あらゆる機会にあらゆる手段で、できるだけ、見聞をひろめ、知識を深めて、巾の広い人間になろうとする努力こそ絶えず必要なことと思われれます。

以上とりとめもないことを書くうちに紙面の余裕もなくなり、十分意を尽くすことができませんが、何とぞよろしく御賢察下さい。

## ≡ 私 の 近 況 ≡

昭和38年度卒

壺鳥 康子

なつかしい地理学教室を巣立ち、教職について一ヶ月余り、学生時代の気ままな生活から、朝八時出校という、一日の規則正しい生活になれようとするだけで、二ヶ月目を迎えようとしています。

あゆただしい新学期の諸行事をはじめ、何とかも新しいことばかりで、しばらくは取組室の片隅に固くなつて座つて居りながらと落ちつかない毎日でしたが、五月に入りようやく授業と軌道に乗り自分の生活を取りとどしつゝあります。

今年は、担当はありませんが、授業は高一の地理をクラスとたされています。一つの教案をク回、同じことをしやべるのですから大いに自分の勉強

になります。「教えることは学ぶことである」という先輩の言葉を今ほとんど身にしみて感じております。

クラブは、先輩の井上さんの指導の下に今年から新設された、社会部の顧問にさせられてしまいました。地理の好きな生徒、五十人余りが集まり、夫々、自主的な活動をしています。今年オリンピックの年、貿易自由化の年とあつて、それらに関連した外国の地誌を調べたり、夏休みには実地調査を行いたいとみんなはりきっています。先日は上野までロシア秘宝展を見に行つたり、なかなか積極的ですが、下町の女子校ですので、にぎやかなこと、この上なく、静かにさせるのに一苦労です。

環境がら、自然に親しむ機会にはあまり恵まれてはいませんが、五月下旬に行われる社会見学では野田醤油を見学に行きます。地形図をそろえ土地利用図をつくらせ、空中写真を使つてりして関東平野の洪積台地と沖積低地などをつかませたりしています。

こんなところが、かけ出しニケ月目の教員の様子ですが、この一年、教員一年生として生徒と共に遊び、学んで行こうと思つております。

## 研究室だより

貝山 久子



いささかの感傷と不安と、あふれるばかりの希望と——一年の中で一番さまざまな感情が交錯する春を迎えてノ2回目、地理学教室もノ4人の卒業生を送り、ノ7人の新入生を迎え、そしてキャンパスはとうそろそろ夏に移動しはじめています。

“研究室の雰囲気はちつと、変わなくて、一歩足をふみ入ると、たちまち昔の年月にかえるような気がする”とおつしやる卒業生もありますが、一見不変のような研究室も、スタッフの入れ替えや備品の配置、または図書や器材の充実など、ゆるやかながら変化し、また発展しています。今年助手の原高則さんが、埼玉県越谷市の中央中学校の教諭として転出なさいました。

僅か一年間でしたけれど、教室のため誠心誠意つくして下さり、私なども原クンの“男性であること”を利用して、大変お世話になりました。早速3年生を担当し、また社会クラブの顧問として、大ハリキリのようです。原さんの後任は3回生の岡崎セツ子さんです。岡崎さんは今春明治大学のマスターコースを修了なさった先輩でおそらく当教室はじまつて以来の立派な助手